

令和5年度 北陸農政局農業農村整備事業等評価（国営事業）に係る技術検討会（第1回）  
議 事 録（国営事後評価「佐渡地区」抜粋）

○日 時：令和5年6月5日（月）13：30～15：43

○場 所：金沢広坂合同庁舎 第1・2会議室（7階）

【委員からの質問・意見】

（浜野委員）

私、仕事柄、細かいことなのですけれども、令和4年度に佐渡地区の受益農家・地域住民へ実施されたアンケート調査の結果ですが、自然環境の変化で「思う」「ややそう思う」が4割、「かなり満足している」「やや満足している」が5割。ということは、半分以上、反対意見の人がおられるわけで、これで自然環境の維持を実感というのはちょっとなかなか苦しいかなと、細かいことを言いますけど、と思いました。

あと、こういう場なのではないと思うのですけれども、農家さんの声がありました。よかったなという声だけではなく、デメリットとかよくなかったと思われる方の意見もお聞かせいただけたら、今後の参考になるのではないかと思います。

あともう一つ、最後のトキに関しては、石川県でもご存じのように能登地域で放鳥に向けた取組が始まりますので、これは未来に向けて波及効果として良い取組だと思いました。

（事務局・西島）

まず、実施したアンケートのうち、地域住民からの結果でございますが、4割の方からはポジティブなご意見をいただき、2割の方からネガティブなご意見をいただきました。ただ、冒頭で説明させていただきました農家からのインタビューや、アンケートの「思う」「ややそう思う」という方が「思わない」という方よりもやはり多かったです。中間層の方も当然おられますけれども、景観に関しましてはそういうようなご意見をいただきましたので、相対的にはやはり多いのかなというふうに私たちとしては認識しております。

デメリットのところでございますが、関連事業の進捗によってはまだ水が来ていないというような農家からのご意見も聞いておりますが、そういうところは国・県営事業推進協議会や新潟県としても一生懸命関連事業を進めておられますので、そういう人たちの声を何とかするためにも、今後、関連事業が進められていくと考えております。

最後にいただきました石川県も含めての波及効果へのご意見ありがとうございます。佐渡市も一生懸命トキの保全などを考えられておりますので、私どもとしましても引き続き見ていきたいと思っております。

（森委員長）

今ご説明いただいた、総合評価で「作物の品質が向上するとともに単価・単収の増加に寄与」とあるのですけれども、これは地区別評価書の費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化のうち、生産量の表を幾つか見ていきますと、例えば水稻は現況（計画変更時点）よりも評価時点で単収が落ちています。雑穀類などは上がっていますが、豆類は逆に落ちていたりするので、これはたまたま統計的なものなのか、もし事務局で要因が分かりましたらご説明いただければと思います。

(事務局・西島)

水稻に関しましては、皆さんご存じだと思いますが需要の減少などにより全国的に下落してきております。同様に佐渡産のお米も単価が下落してきていると考えております。

また、豆類に関しましても純粹に統計的なものとなっています。

逆に、増えたというところが、果実類の柿などでございます。これに関しましては、単収に関しましても増えております。これはかん水による効果が発揮されたのではないかと考えているところでございます。

(森委員長)

用水が供給されたことにより、特に主要作物である水稻は単収が上がっているのかなと思っただけですけども、逆にちょっと下がっていたので、最近の気候状況なども影響しているのでしょうか。せっかく事業を実施されて、たまたま事後評価した時点で単収が落ちているというのはどうしてなのかなと思っただけです。

(事務局・西島)

資料のとおり、この地域、認証米制度が非常に進んでおります。認証米制度を行う上で、やはり減農薬、減化学肥料栽培とかも行っておりますので、単収に関しましては普通のお米よりも減るという傾向があります。もろ刃の剣かもしれませんが、それらの取組で単収が減っているのではないかと推測をしているところでございます。

(信濃川水系調査事務所・福田)

1点補足いたしますと、全体の水田の作付面積のうち8割が特別栽培米であり、いわゆる農薬や化学肥料を5割減すとか、トキの認証米の場合には8割減しています。さらに、最近の取組としては、無農薬、無化学肥料による栽培が、全体の1%、面積では50haぐらいで始まっていると聞いています。どちらかという、生産量を増やすというより、できるだけ安全・安心な栽培により、付加価値を向上させる取組にシフトしている、そのようなことも単収が減った要因の一つではないかというふうに思います。

(森委員長)

分かりました。品質を上げるために減農薬とか化学肥料も控えたりするということで、収量は落ちているけれどもブランド米を増やしているの、逆に単価を上げていく取組がなされているということですね。ありがとうございました。

(森委員長)

それでは、今日ご欠席の根岸委員からの質問、意見等について事務局のほうからご紹介をお願いしたいと思います。

(事務局・新聞)

本日、欠席されている根岸委員からは事前に三つの質疑、意見をいただいておりますので、その質問への回答を合わせて説明させていただきます。

一つ目は、「社会情勢の変化として、新潟県及び佐渡市の農業の動向は理解できたが、当該事業の受益地区の動向についてはどのようなものか」という質問です。

その回答としましては、事後評価調査につきましては、統計資料等の客観性のあるデータを用いて状況等を可能な限り定量的に整理することとなっており、これら統計データは市町村別に集計されているため、受益地を包含した結果となっています。このため、社会情勢の変化につきましては、受益地区内のみを対象とした把握は行っていないということとなります。

二つ目は、「事後評価時点における費用対効果分析の結果として、事業計画策定時や再評価などで示された費用対効果の確認と、今回の事後評価時点での費用対効果を対比させて見ることはできるか。今回の資料でそれが確認できる部分はあるか」という質問です。

その回答としましては、事後評価調査での費用対効果分析につきましては、事業計画（変更）時点（H18）と事後評価時点で作付面積、生産量等の費用対効果分析の算定基礎となる要因の変化や評価時点で発現している効果を可能な限り定量的に把握・整理した上で、総費用総便益比方式で算定し、評価を行うこととしております。このため、事業計画時点の個々の効果項目との対比による評価は行っていません。

また、本地区の費用対効果分析は、事業計画時点は「投資効率方式」で算定され、評価時点は「総費用総便益比方式」で算定を行っており、効果算定の方法も変わっていることから、単純に比較することも難しいと思われまますとなります。

三つ目は、「事業実施による環境の変化のうち、農村生産環境として事後評価の費用対効果をみると、「佐渡島の里山保全に関する効果」による便益額を大きく評価している一方で、アンケート結果のうち、当該事業により「農村らしい景観が維持増進された」と思う割合はやや低い結果となっている。アンケート結果をどのように解釈されているのか補足説明を頂きたい」という質問です。

その回答としましては、本評価に際しては、①地域住民から事業の効果を聞き取るためのアンケートと、②CVMによる効果を算定するためのアンケートを実施しています。

①の調査結果では「農村らしい景観が維持増進された」の問いに対して、維持増進されたと思うなどのポジティブな評価が、どちらとも言えないといった中間的な方を除いて、維持増進されたと思わないなどのネガティブな評価を上回っていること、同アンケートの「トキや魚類等の生息・生育環境が確保され生態系の保全が図られた」かの問いに対して、約6割の方からの評価を得ていることから、本事業の実施による地域の里山保全などの維持・保全に対しては一定の評価をいただいたと考えています。

また、事後評価調査の費用対効果分析につきましては、統計等のデータやアンケートなどを可能な限り定量化し算定することとされており、「佐渡島の里山保全に関する効果」については②の調査結果により定量的に効果額の算定を行ってまいります。

以上となります。

以 上